

○中期計画における数値目標一覧

参考資料 1

	中期計画(案)対応箇所	過去6年間の実績値						基準値	目標値(中期計画期間)								指標の計算方法	目標値設定の考え方	備考
		H26	H27	H28	H29	H30	R 1	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8					
① 大学の志願倍率の維持向上(倍)	第1-1-(1)-ア-(7) 【入学者受入方針等、 学士課程】	2.4	2.1	2.3	2.5	2.1	2.3	2.3	2.3	2.3	2.3	2.3	2.3	2.3	2.3	2.3	入学志願者数/募集定員	今後の少子高齢化、コロナ禍及び過去6年間の推移(ほぼ横ばい)を勘案し過去6年間の平均値(2.3)を目標値に設定する。	
② 大学院の志願倍率の維持向上(倍)	第1-1-(1)-ア-(4) 【入学者受入方針等、 大学院課程】	2.3	2.0	0.7	1.7	1.0	1.2	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	入学志願者数/募集定員	今後の少子高齢化、コロナ禍及び過去6年間の推移(減少傾向)を勘案し過去6年間の平均値(1.5)を目標値に設定する。	
③ 学部卒業生の輩出(人)	第1-1-(2)-ア 【教育の成果、学士課程】	112人	104人	97人	98人	98人	86人	96人	96人	96人	96人	96人	96人	96人	96人	96人	入学定員(105)×0.9785×0.9785×0.9785×0.9785=96人/年	※1-中途退学率(全国平均H24:2.65%)=0.9785	
④ 大学院修士生の輩出(人)	第1-1-(2)-イ 【教育の成果、大学院課程】	30人	14人	40人	22人	36人	35人	35人	35人	35人	35人	35人	35人	35人	35人	35人	修士入学定員(33)×0.9785×0.9785+博士入学定員(3)×0.9785×0.9785×0.9785=32+3=35人/年	※1-中途退学率(全国平均H24:2.65%)=0.9785	
⑤ FD・SD研修会の参加率向上(%)	第1-1-(3)-イ 【教育・教員の質の向上】	-	-	-	41.4%	67.8%	61.5%	67.0%	72.5%	78.0%	83.5%	89.0%	94.5%	100.0%	100.0%	参加者数/対象者数(常勤)の平均値	計画最終年度(R8)に100%を達成できるよう毎年度の参加率を増やしていく。		
FD研修会の参加率(%)	〃	-	-	-	49.3%	94.1%	58.1%	64.10%	70.10%	76.10%	82.10%	88.10%	94.10%	100%	100%	参加者数/対象者数(常勤)	計画最終年度(R8)に100%を達成できるよう直近のR1の値から毎年度参加率(6.0%)を増やしていく。		
SD研修会の参加率(%)	〃	-	-	-	33.6%	41.4%	64.8%	69.80%	74.80%	79.80%	84.80%	89.80%	94.80%	100%	100%	参加者数/対象者数(常勤)	計画最終年度(R8)に100%を達成できるよう直近のR1の値から毎年度参加率(5.0%)を増やしていく。		
⑥ 就職希望者の就職率(学部・大学院)(%)	第1-1-(4)-エ 【就職支援】	69.9%	71.4%	58.3%	80.6%	75.6%	84.8%	73.5%	74.5%	75.5%	76.5%	77.5%	78.5%	79.5%	79.5%	就職した卒業生及び修士生/就職を希望する卒業生及び修士生	過去6年間の平均(73.5%)から1%/年の増加を目指す。		
〃(学部)(%)	〃	68.7%	72.9%	60.4%	77.6%	67.3%	81.1%												
〃(大学院)(%)	〃	75.0%	63.6%	54.8%	88.9%	90.0%	92.3%												
⑦ 外部研究資金の導入 【応募率】 【導入件数】	第1-2-(1)-イ 【研究水準の向上】 第3-1-(1) 【外部研究資金の導入】	11.1% 11件	9.2% 9件	13% 13件	12.8% 12件	17.9% 14件	15.4% 13件	13.2% 12件	14.2% 12件	15.2% 12件	16.2% 12件	17.2% 12件	18.2% 12件	19.2% 12件	19.2% 12件	19.2% 12件	・応募率:応募数(研究代表)/対象者数(常勤) ・導入件数:過年度の平均(含継続)	研究水準の向上及び外部資金の獲得のため外部研究資金の導入を目指す、まずは応募率の向上に重点を置いて取り組んでいくこととする。 また、受託研究やその他の外部資金についても、導入に向けて調査・検討を行っていく。	応募率については、科学研究費についての①芸術系の対象研究費が少ないこと、②実技系教員(本学では約8割)単独での応募は困難であること、③他県の状況を勘案し、将来的におおよそ20%程度が適当と考えられる。
ア 外部研究資金の応募率(研究代表)(%)	〃	11.1%	9.2%	13.0%	12.8%	17.9%	15.4%	13.2%	14.2%	15.2%	16.2%	17.2%	18.2%	19.2%	19.2%	19.2%	応募数(研究代表)/対象者数(常勤)	過年度の平均値をもとに、1%/年ずつの増加を目標値に設定する。	
イ 外部研究資金の導入件数(件) (下記の合計件数)	〃	11件	9件	13件	12件	14件	13件	12件	12件	12件	12件	12件	12件	12件	12件	12件	科学研究費については下記の事情から導入件数の増加は難しいと思われる、過年度の平均値を目標に設定する。 受託研究及びその他の外部資金については、今後、導入に向けて調査・検討を行う。		
科学研究費(研究代表)(件)	〃	6件	5件	6件	7件	9件	6件	6.5件	6.5件	6.5件	6.5件	6.5件	6.5件	6.5件	6.5件	6.5件	科学研究費については、①芸術系の対象研究費が少ないこと、及び、②実技系教員(本学では約8割)単独での応募は困難であることという事情があり、導入件数の増加は難しいと思われることから、過年度の平均値を目標に設定する。		
科学研究費(他大学からの分担者)(件)	〃	5件	4件	7件	5件	5件	7件	5.5件	5.5件	5.5件	5.5件	5.5件	5.5件	5.5件	5.5件	5.5件		〃	
その他外部資金(件)	〃	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	今後、導入に向けて調査・検討を行う。		

○中期計画における数値目標一覧

参考資料 1

	中期計画(案)対応箇所	過去6年間の実績値						基準値	目標値(中期計画期間)						指標の計算方法	目標値設定の考え方	備考
		H26	H27	H28	H29	H30	R1		R2	R3	R4	R5	R6	R7			
⑧ 公開講座、公開授業、移動大学等開催数(件)	第1-3-(1)-イ 【地域及び社会への貢献】	35件 3,389人	35件 2,634人	33件 2,009人	44件 3,017人	31件 2,092人	34件 2,015人	35件	35件	35件	35件	36件	37件	38件	<p>公開講座、公開授業、移動大学等については、開催場所・施設の関係上、単純に動員数のみから実績が把握できるとはかぎらず、また、必ずしも開催数(件)と動員数(人)とが比例する関係にもないことから、動員数ではなく実施件数をメインとして、各年度毎の公開講座等の内容、実施状況等を総合的に勘案して評価していくこととする。</p> <p>公開講座、公開授業等は、芸術文化研究所、全学教育センター、各学部等が法人化に際して設置される「社会連携センター」と連携して地域及び社会への貢献の一環として実施する。同センターの体制や運用等の整備状況をみながら、過年度実績(H26～R1)の平均値を基準として法人化後4年目からの開催数の増(1件/年)に向けて取り組んでいく。(移動大学は毎年1回離島等において行っているが、規模が大きく回数の増加は見込めないことから、公開講座等に含めて計上する。)</p> <p>なお、本数値目標は、第1-2-(1)-ウ【研究成果の発信】とも関連するが、第1-3-(1)-イ【地域及び社会への貢献】との関連が大きいため当該箇所に掲載する。</p> <p>※ 今後、オンライン、オンデマンドでの発信も行っていく。</p>		
⑨ 展覧会、演奏会、定期公演等開催数(件)	第1-3-(1)-イ 【地域及び社会への貢献】	73件 19,060人	57件 12,470人	49件 8,260人	60件 9,040人	70件 13,190人	70件 13,560人	63件	63件	63件	63件	63件	63件	63件	<p>展覧会、演奏会、定期公演等については、開催場所・施設の関係上、単純に動員数のみから実績が把握できるとはかぎらず、また、必ずしも開催数(件)と動員数(人)とが比例する関係にもないことから、動員数ではなく実施件数をメインとして、各年度毎の展覧会、演奏会、定期公演等の内容、実施状況等を総合的に勘案して評価していくこととする。</p> <p>また、展覧会、演奏会、定期公演等の開催は、各学部等の本務である授業や各種行事と調整しながら取り組んでおり、現状の開催数を増やすことは本務に影響を与え困難と考えられ、質の低下にもつながりかねないことから、過年度実績(H26～R1)の平均値を目標として設定し今後継続して取り組んでいく。(地域及び社会への貢献に関しては、公開講座等の増加を検討する。)</p> <p>なお、本数値目標は、第1-1-(1)-ウ【教育方法】、第1-2-(1)-イ【研究水準の向上】及び第1-2-(1)-ウ【研究成果の発信】とも関連するが、第1-3-(1)-イ【地域及び社会への貢献】との関連が大きいため当該箇所に掲載する。</p> <p>※ 演奏会及び定期公演に関しては今後、動員率(入場者数/施設の収容可能人数)の設定等も検討していく。</p> <p>※ WEB等を活用した発信には著作権も関連してくるため、今後要検討。</p>		
展覧会等開催数(件) (芸術資料館等)	〃	41件 16,860人	25件 10,270人	17件 6,060人	28件 6,840人	38件 10,990人	37件 11,360人	31件	31件	31件	31件	31件	31件	31件	〃		
演奏会等開催数(件) (音楽堂等)	〃	32件 2,200人	32件 2,200人	32件 2,200人	32件 2,200人	32件 2,200人	33件 2,200人	32件	32件	32件	32件	32件	32件	32件	〃		
⑩ 自治体、地域、企業等との連携事業数(件)	第1-3-(1)-イ 【地域及び社会への貢献】 第1-3-(1)-ウ 【産学官の連携】	—	—	—	—	37	39	38	38	38	38	38	38	38	<p>当該連携事業は、各学部等の本務である授業や各種行事と調整しながら取り組んでおり、現状の開催数を増やすことは本務に影響を与え困難と考えられることから、過年度実績の平均値(38件/年)を目標として設定し今後継続して取り組んでいく。</p> <p>「地域連携事業」と「企業・自治体等との連携事業等」とは重複する部分も多いため、併せて記載することとする。</p>		
⑪ 大学のホームページ等のアクセス数の維持向上(件)	第4-2 【情報公開、広報】	90,002	101,610	111,828	105,424	101,138	114,013	117,400	120,900	124,500	128,200	132,100	136,100	140,200	<p>大学HPを各年度(4/1～3/31)ごとにGoogle Analyticsで解析したユニークユーザー数</p> <p>今後、HP内での個別のページのアクセス状況等も分析検討し、効果的な情報公開、広報その他に役立てていく。</p> <p>直近のR1の値を基準に、R2以降、3%/年の増加を目指す。</p> <p>※ R1.10.31の首里城火災及びその後のコロナ禍による影響でHPのアクセス増。</p> <p>※ SNSの活用も検討中(内容、方法等)。</p>		